

# 弥栄町学校再配置検討分科会最終報告

## 1. はじめに

京丹後市弥栄町の地域には、現在、小学校が5校、中学校が1校ある。本分科会では、児童生徒数の今後の動向や、小学校・中学校の教育内容や教育活動をめぐる諸課題、さらには立地上の環境等諸条件や耐震基準等からみた施設設備等の諸問題を踏まえ、全町域的な視野に立ち、様々な教育的観点から、今後の本町域における小学校及び中学校の再配置に関する事項について検討を行った。

## 2. 分科会開催経過（委員数17人）

出席者数

第1回分科会	平成19年	7月12日（木）	16人
第2回分科会	平成19年	8月6日（月）	16人
第3回分科会	平成19年	10月15日（月）	13人
第4回分科会	平成19年	11月12日（月）	13人
第5回分科会	平成19年	12月10日（月）	15人
第6回分科会	平成20年	2月25日（月）	16人
第7回分科会	平成20年	3月17日（月）	14人
第8回分科会	平成20年	4月14日（月）	10人

## 3. 分科会における議論

- ・弥栄町における学校再配置の是非について議論し、中学校については現在1校であることから現状のままとすることとし、5校ある小学校について再配置を検討した。

### (1) 学校再配置の是非について

- ・人数が少ないと良い面もあるが、刺激も少なく色々な点で考えないといけない。
- ・野間小学校は以前から複式だが、人数が少ないからといって統合ではないと思う。
- ・学校は地域の拠り所でもあると思うので、勉強のことだけでなく色々と考えていかないといけないだろう。

- ・道路ができれば周辺が栄えるように、その逆で学校がなくなれば地域が寂れていくだろう。ただ、子どもは多くの中で育った方が後々よいと思う。
- ・児童数の推移を見れば、いつかは統廃合も必要に思える。
- ・今統廃合を考えていかないと遅い。1クラスが10人前後では社会性も育たないと実感している。
- ・児童数の減少は明らかだし、耐震のこともわかっている。教育次長の説明で市としての方針もわかるが、もう少しはっきりと示していただかないと、歯切れの悪いことしか言えない。

#### (2) 適正だと思う学校数について

- ・現在の施設を有効に使い、方向性を示せと言われるなら、弥栄町で1校という方向は考えられない。ただし、折角なら既存施設の耐震補強工事等のことも含め1校というのが望ましいと思われる。30年後のことを見越すことは難しいが、1校が理想。
- ・財政のことも考えると2校にしても意味がないように思う。子どもの数がこんなに急激に減るとは想像できなかった。2校にするよりも、1校にして2クラスにした方が子どものことを考えてもよいのではないか。
- ・児童数の推移を知る前は色々と意見もあったが、推移を見ると何年か経ったら1校という姿が見える。2校にする必要はないと思う。

#### (3) 登下校について

- ・統廃合してスクールバス通学になったときのことも聞きたい。アスベスト問題の時、短期間そうだったが、待ち合わせなど大変だった。
- ・登下校の安全を考えるとスクールバス通学がよい。

#### (4) 学校施設について

- ・弥栄の学校はどの学校も築後30年近く経過する。一般的には改築の目途だと思われる。禍根を残さないように考えていかないと。
- ・既存の施設を使っていくなら、どこが残りどこがなくなるのかそこも大きな問題だと思う。
- ・校舎の耐用年数などを考えると、建て替える必要がある時期になるだろう。それなら、増築するより新築をした方がよいだろう。
- ・昭和56年には鳥取小学校に236人いた。それなら、鳥取小学校を増築しな

くてもいけるのでは。

(5) その他

- ・幼稚園に選んで行っているように、学校を選択できるようにすることもいいことでは。
- ・改修、耐震補強、また新築する場合の概算の経費を示してほしい。
- ・この先、旧町の枠組みを残したことが非常に無理になるように思うが。

4. 検討結果（論議の到達点）

- ・合計 8 回開催した分科会において、当初は再配置に否定的な意見もあったが、子どもの将来を考え、今後の児童数・生徒数を考慮し検討した結果、17 名の委員の総意によって下記のとおりまとめることができた。

(1) 再配置後の学校数について

- ・現在 5 校ある小学校を 1 校に統合すべき。

(2) 上記の理由

- ・小学校は新築で 1 校にすべきだが、現在の施設を有効に使い、方向性を示せと言われるなら、最大規模の鳥取小学校でも対応できないので 2 校になってしまう。

30 年後のことを見越すことは難しいが耐震補強工事等のことを含めて考えても 1 校というのが望ましいと思われる。1 校にすべき。

- ・子どもの数がこんなに急激に減ることは想像できなかった。今後もこのような状況が続くであろう。それなら 2 校にするよりも、1 校にして 2 クラスにした方が子どものことを考えてもよい。
- ・児童数の推移見ると、何年か経ったら 1 校しかないだろう。

(3) 再配置後の学校の場所

- ・現在の鳥取小学校用地のような広大な土地を他で確保することは困難だと思うので、鳥取小の用地を活用する方向でいいと思う。

(4) 再配置を進めるうえでの条件

ア. 校舎について

- ・校舎については、現在の校舎の耐震診断の状況、また弥栄町内の小学校が

築後 30 年近く経過することからも、増築することより新築をしていただきたい。

#### イ. 通学方法について

- ・遠距離を徒歩通学し、学校に着いたころには体力を消耗しているようなことは避けるべきだが、あまり甘やかすこともどうか。具体的な内容はともかく、一定の整理をしていただきスクールバスの運行をお願いしたい。
- ・仮に徒歩で通学する場合、歩道が無く大変危険であり整備が必要であるし、自転車通学となる場合でも、自転車専用道路のような整備も必要である。

#### ウ. 学校名について

- ・京丹後市第〇小学校というような名称はわかりにくいので、旧町名である弥栄という名が残っている以上、学校名に『弥栄』は入れていただきたい。

#### エ. 跡地の活用について

- ・使わなくなった校舎や跡地の活用について、地域が活気づくような有効な活用をお願いしたい。学校施設が地域の避難場所になっている学校もあり、その点についても検討をお願いしたい。

### 5. 検討委員会への提言・要望等

- ・この分科会での検討結果を尊重していただき、学校再配置の検討をお願いしたい。

京丹後市弥栄町学校再配置検討分科会